

日本メディカルコミュニケーション学会
第2回学術集会・シンポジウム
The second conference and symposium of the Japanese Medical
Communication Association

榎原圭子 1)、藤崎和彦 2)、中山健夫 3)、岩隈美穂 4)、原木万紀子 5)、木内貴弘 6)
Keiko Sakakibara 1), Kazuhiko Fujisaki 2), Takeo Nakayama 3), Miho Iwakuma 4),
Makiko Haragi 5), Takahiro Kiuchi 6)

- 1) 東洋大学社会学部 社会心理学科
- 2) 岐阜大学 医学教育開発研究センター
- 3) 京都大学大学院医学研究科 社会健康医学系専攻健康情報学分野
- 4) 京都大学大学院医学研究科 社会健康医学系専攻医学コミュニケーション学分野
- 5) 埼玉県立大学 健康開発学科 健康行動科学専攻
- 6) 東京大学大学院医学系研究科 公共健康医学専攻医療コミュニケーション学分野
- 1) Department of Social Psychology, Faculty of Sociology, Toyo University
- 2) Medical Education Development Center, Gifu University
- 3) Department of Health Informatics, School of Public Health, Kyoto University Graduate School of Medicine
- 4) Department of Medical Communication, School of Public Health, Kyoto University Graduate School of Medicine
- 5) School of Health and Social Services, Department of Health Sciences (Behavioral Sciences), Saitama Prefectural University
- 6) Department of Health Communication, School of Public Health, the University of Tokyo

Abstract

The Japanese Association of Medical Communication was established in FY2021 as a forum for academic discussion of communication among medical and healthcare professionals. The main research areas of the society are media communication (distribution of academic information and dissemination of knowledge to medical professionals) and interpersonal communication (communication for interpersonal education and training among medical professionals). In FY 2022, the Society held an academic meeting and symposium, "Mentoring in Healthcare Professionals," at Health Communication Week 2022, Nagoya, Japan. In cooperation with the other related academic societies of Health Communication Week Organization, we would like to deepen our knowledge of communication related to health and medical care and develop activities with the aim of contributing to all people including medical professionals, patients, and society.

要旨

日本メディカルコミュニケーション学会は、医学・医療専門家相互のコミュニケーションについて学術的に議論する場として2021年度に発足した。本学会の主な研究領域は、メディアコミュニケーション（学術情報の流通・医療関係者への知識普及）および対人コミュニケーション（医療者相互の対人教育・研修のコミュニケーション）である。2022年度はヘルスコミュニケーションウィーク2022～名古屋～において、本学会学術集会・シンポジウム「医療者におけるメンタリング」を開催した。本学会が日本ヘルスコミュニケーション学関連学会機構の各学会と連携し、健康や医療に関わる「コミュニケーション」への知見を深め、そこに関わるすべての人（医療者、患者、社会）に貢献していくことを目指して活動を展開したい。

キーワード：メディカルコミュニケーション、学術研究コミュニケーション、医療者間のコミュニケーション
Keywords: medical communication, communication of academic research, communication among health care professionals

1. はじめに

日本メディカルコミュニケーション学会は、医学・医療専門家相互のコミュニケーションについて学術的に議論する場として2021年度に発足した。これまで医療者と患者間でのコミュニケーションについて、多くの研究が蓄積されてきたが、その基盤となるのが医学・医療者専門家間での正しい情報発信と共有、信頼関係、協働であり、日本メディカルコミュニケーション学会の主な関心はここにある。当学会が対象とする主な研究領域は以下の通りである。

1) メディアコミュニケーションに関するもの（学術情報の流通・医療関係者への知識普及）

- ・（特にコロナ以降の）オンライン学術集会
- ・雑誌投稿規定
- ・研究不正防止
- ・臨床試験登録・症例データレポジトリ
- ・診療ガイドライン
- ・メディカルライティング
- ・メディカルイラストレーション
- ・医療者の診療行動の変容のためのコミュニケーション

2) 対人コミュニケーションを主とするもの（医療者相互の対人教育・研修のコミュニケーション）

- ・医学研究教育機関・医療機関の組織のコミュニケーション・医療の多職種連携
- ・コーチング
- ・メンタリング

2. 第2回学術集会・シンポジウムの開催

ヘルスコミュニケーションウィーク2022～名古屋において、本学会の第2回学術集会の企画として第2回シンポジウムが開催された(2022年10月1日)。本大会では、本学会の研究領域の中からメンタリングを取り上げ、「医療者におけるメンタリング」をテーマとしたシンポジウムを開催した。メンタリングとは、職業人および人間としての成長・発達を促すための継続的な支援である。医療分野でもプロフェッショナルとしての技術や能力だけでなく、他者との良い協働のためのチームワークやリーダーシップなどの汎用的能力が重視されており、これらの能力を開発する方法の一つとしてメンタリングが注目されている。本シンポジウムでは、メンタリング研究および教育を専門とする研究者が講演を行った。

第一演者：榊原圭子（東洋大学社会学部）：「メンタリングとは何か―定義とその効用」

第二演者：Richard Toshiharu Kasuya（University of Hawaii, John A. Burns School of Medicine）：
「Practical tips for mentors and mentees」

第三演者：尾原晴雄（沖縄県立中部病院）：「日本の医学教育においてメンタリングをどのように活用するか？
―卒後教育での実践と先行研究から―」

それぞれの発表の詳細は、各演者による総説を参照されたい。

3. 結語

日本メディカルコミュニケーション学会第2回学術集会・シンポジウムの概要を報告した。日本メディカルコミュニケーション学会が研究領域とする「医学・医療専門家相互のコミュニケーション」は、医療の質に直結するきわめて重要なテーマである。日本ヘルスコミュニケーション学会ははじめ関連学会と連携し、健康や医療に関わる「コミュニケーション」への知見を深め、そこに関わるすべての人（医療者、患者、社会）に貢献していくことを目指して活動を展開したい。

謝辞

本シンポジウムの機会をいただいたヘルスコミュニケーションウィーク2022～名古屋～総大会長の阿部恵子先生はじめ、学術集会の準備・運営に当たられた皆様にこの場をお借りして、改めて感謝を申し上げます。

研究資金 無

利益相反自己申告 無

引用文献 無

*責任著者 榊原圭子（sakakibara@toyo.jp）